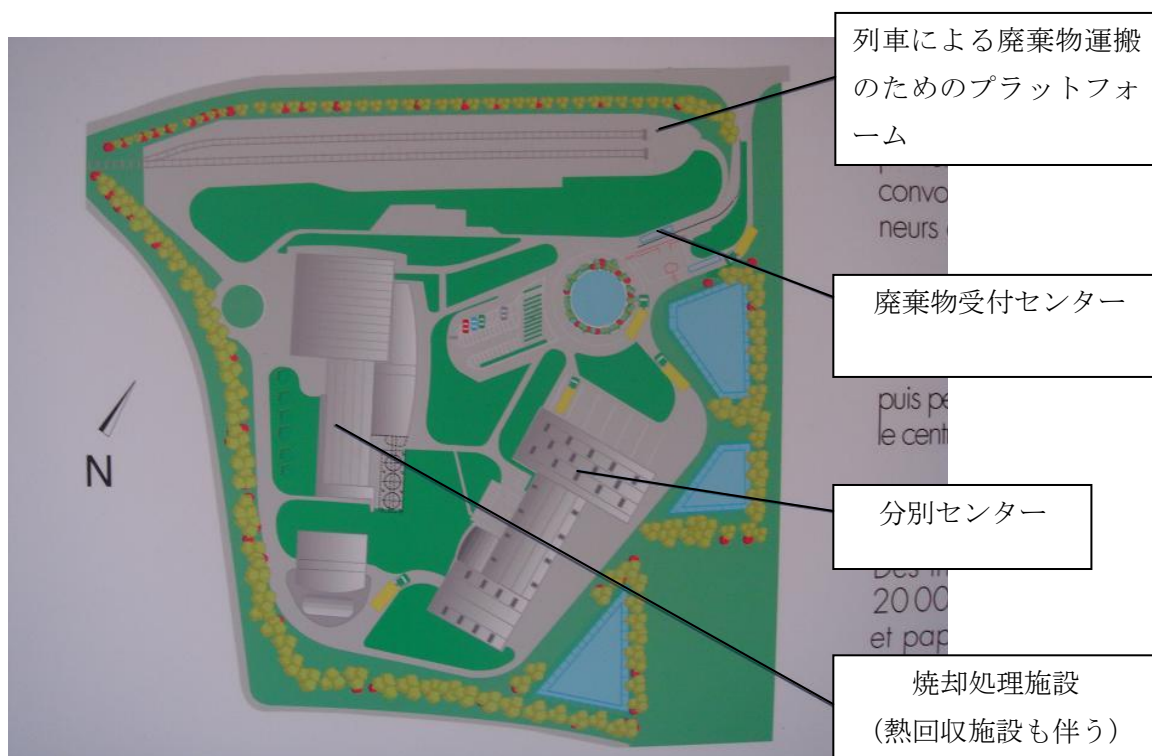


活動支援（全国市議会議長会欧州都市行政調査団）報告

7月1日から9日まで全国市議会議長会欧州都市行政調査団(25名)が欧州視察に来られ、クレアパリでは7月2日にフランスの地方自治制度及び廃棄物処理政策について説明を行いました。また、同日午後に訪問したオワーズ混成事務組合の廃棄物処理センターに同行しましたので、その概要について報告します。

オワーズ混成事務組合は、パリから北西に約80kmのところの位置するコンピエーニュというコミューンに位置します。1996年にオワーズ県の約半分の260のコミューン(2008年現在の人口423,849名)が集まり当該組合が設立されました。当日は、当該組合の広報室長であるモルガーヌ・ル・シャトン氏(Mme.Morgane Le Chaton)より、当該事務組合の設立経緯及び廃棄物処理センターについての説明を受けた後、焼却処理施設及び分別センターの視察を行いました。

廃棄物処理センターは、電車による廃棄物運搬のためのプラットフォーム、廃棄物受付センター、分別センター及び焼却処理施設からなり、敷地面積は約10ヘクタールの規模を有しています。2002年4月に各施設の工事をスタートさせ、総建設費は1億2,000万ユーロ(約162億円¹⁾)です。2003年7月の焼却処理施設の完成式典には、当時の環境大臣であるロシリヌ・バシュロ氏(Mme.Roselyne Bachelot)が出席するなど、国レベルからみても重要な施設であるといえます。当該センターでは、最終処理場である埋立地に送られる廃棄物は6%であり、94%がリサイクル及び熱利用されているということでした。



廃棄物処理センターの全体図

¹ 2009年7月28日現在のレート 135円

この施設の大きな特徴は、在来線から引きこんだ線路を利用し、列車により廃棄物を運搬している点です。各車両 13 トンの廃棄物が収用可能な 12 両の列車により施設内に運搬されています。トラックにより運ばれた廃棄物をローラーで圧縮しコンテナに入れ、廃棄物を当該センターへ運搬する仕組みですが、廃棄物を収集し圧縮した廃棄物を入れるコンテナは組合の地域内に 6 つあり、6 つのプラットフォームから 88%の廃棄物が電車により当該センターに運搬されているということです。



廃棄物処理センターについて説明するオワーズ混成事務組合広報室長
モルガーヌ・ル・シャトンさん

焼却施設ではリサイクルに適さない家庭廃棄物（生ごみを含む）を焼却処理しており、年間 17 万トン进行处理しています。当該施設は 2002 年に竣工、2004 年に試運転、2005 年に本格稼働となり、建設費用は 7 千万ユーロということです。当該施設では年間 8 万メガワット時の電力を生産しており、そのうちの 7 万メガワット時はフランス電力公社に売買し、残りは焼却センターの運転用の熱源としているとのことでした。住宅用の暖房供給について検討中ということですが、この周辺は一個建てが多いため、集合住宅に暖房供給するよりも経費が多くかかるということから経費面での問題をクリアする大きな課題があるということでした。

また、分別センターでは、資源別（鉄・アルミニウム・紙・包装用段ボール・茶色のダンボール・新聞及び雑誌・レンガ・プラスチック）に手作業にて分別作業を行っており、25 人～30 人が勤務しています。

訪問した訪問団からは、技術としては日本の方が優れている点が多いという声もありま

したが、廃棄物処理センターの清潔さや廃棄物の悪臭が少ないといった面に深く感心しておられました。また、住民は資源ごみとそれ以外の廃棄物と2種類しか分別する必要がないにも関わらず、その後分別センターで資源ごみの分別を適切に実施している説明を受け、住民が行う作業が少ないが、リサイクルが適切に行われているシステムに興味深く耳を傾けておられました。



集合写真

2009年7月2日
パリ事務所（岩手県派遣）
所長補佐 高橋円花